

宮崎うの

Uno Miyazaki



絶倫鬼の生執真妻

〜孕むまで注がれて…♡〜

宮崎うの

Uno Miyazaki



絶倫鬼の生執真妻

〜孕むまで注がれて…♡〜

第一話

「女の悦びを教えてやる」



吾^{われ}をこんな
に執心^{しやくしん}させられるのは
お主^{おま}だけだ

ずっと

お主^{おま}を手^てに入れ^{いれ}るのを
待ち望^{まちのぞ}んでいた――

吾^{われ}とひとつになれ

小夜^{さよ}



川^{かわ}川^{かわ}子^こ

夢^{ゆめ}…？

金色^{きんいろ}の瞳^{ひとみ}に角^{つの}…

フ

はっ

まるで……



すまん……
また借金が
増えてしまった……



そうですか……
ですが父上……

他人の馬を
厠の間
預かった間に

馬が暴れて
塩川様のお屋敷を
荒らした
からといって

その修繕費を
父上が工面する
必要はないのでは？

道理がとおる
相手じゃ
ないんだ……

命があるだけ
ありがたい

それでな
小夜……

俺は
死ぬまで大山の
採銀所で
住み込みだ……

この家も
取られてしまう



おまえには
塩川様のお屋敷に
奉公に出てほしい

私の先祖は
名高い武人の
従者だったという

しかし
伝説の金色の瞳をした
大山の鬼を討ったあと

その子孫にはなぜか
次々と不幸が降りかかり
家は没落していった



私たち親子も
その例にもれず

旦那様
新しい奉公人が
参りました

坂田小夜と
申します

父がご無礼を働き
申し訳ございません

明日よりこちらで
お役に立てるように



口上はいい

よく顔を見せろ

随分
おほこい顔を
しているな？
楽しめそうだ

おやめください！

ア
ウ
ウ

!?

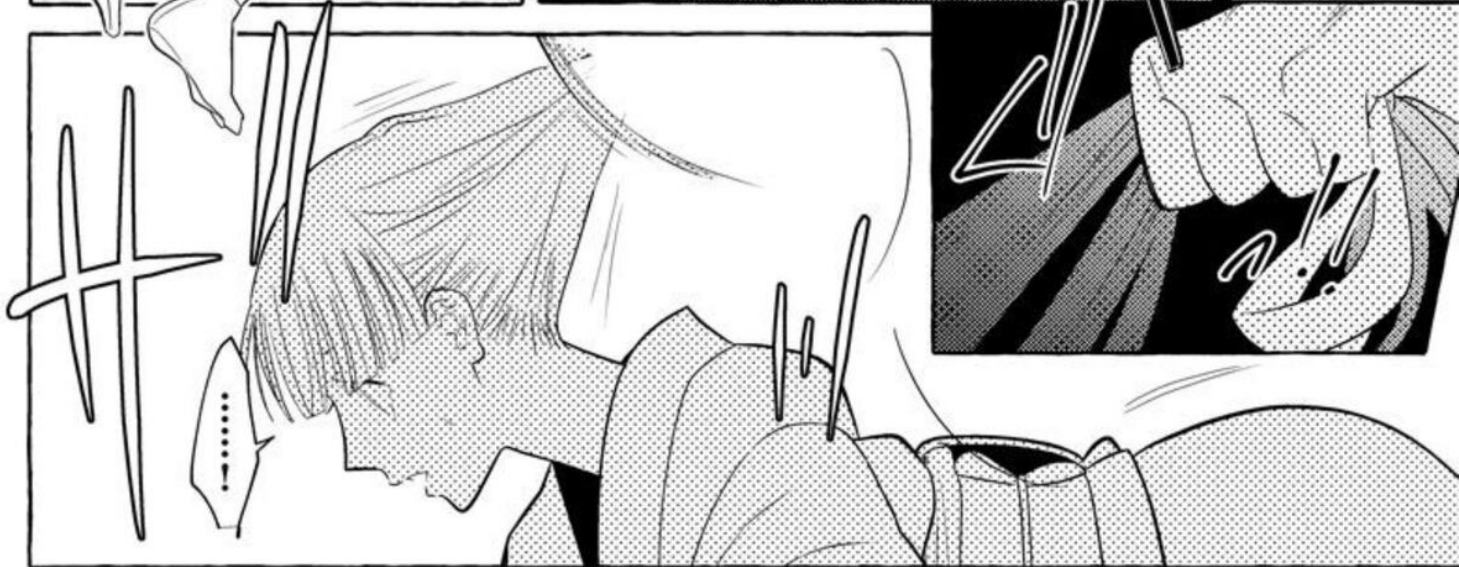
ア
ウ
ウ



女郎屋に
売り飛ばしたほうが
よかったか？

貧乏人め…

私に手を
上げるとは…



……！



あなたは…
私から父を
奪い

家も自由も
奪って

その上純潔まで
奪うというのですか？



……っ



どうした？
声も出せないか？

泣きわめけ！
土下座して
命乞いをしろ！

ホトッ



あなたに
汚される
くらいなら

切り捨てられる
ほうがましよ!!

……っ
生意気な小娘め!



…見事だ娘



体が動かない…!?

なんだ
貴様…ッ!?

誰？
見たことない
肌の色

主人
この奉公人
吾がいただこう

異国の…人？

でもこの金色の瞳

き…
消えた…?

まさか

あ…あれは…
鬼だ…

大山の鬼が出たぞ！



場所が変わった…？

西洋風のお屋敷…

こんな場所村にはない

あなた…
鬼なの？



ああそのとおりだ

待て待て
吾は命の
恩人だぞ？

少し
話をしよう

確かに吾は
お主の先祖に
討たれた鬼だ

だがからがら
命はとりとめた

以来この
人里離れた地で
ひっそり暮らしておる

私を助けた目的は
なんですか

瀕死の状態から
回復するために
力を使い過ぎて
しまっただけ

今の吾には
たいした力は
残っておらん

そこで――

吾はお主が
欲しいのだ

お主は
高い霊力を持って
生まれてきておる

吾のものに
したい

この鬼
恐ろしいけど

艶のある声
整った貌

不思議な魅力に
惑わされそうになる

それは…
私を食べると
いうことですか

まあそういう
ことになるか

勿論
タダとはいわん

父親が採銀所に
いるらしいな

あそこは
年に何人も
死者が出ておる

何を…仰り
たいんですか

吾^{われ}が
放免してやろう

…お主が身を
捧げるならな

ズキニニ

残された
唯一の肉親

助けたくは
ないか?

この鬼を
信用しても
いいの…?

でも

私の力では
父を助けることは
できない

それに
ここから出られても
いくところもない

それは
本当なんですわ

鬼は人間のよう
に嘘はつかん

それなら

私に
選択肢はない

——あなたに
救われた命です

トヤ

父を助けて
くださるのなら

あなたに捧げます

明日お主にも
確認させてやろう

明日には
お主の父は
元の生活に
戻る

可憐で
弱そうに見えて
その実胆が
据わった娘だ

さて

それでは
いただくと
しようか

え…？

やっぱり…騙された？

ま…待ってください！
明日なんて…

食べられる私には
無理な話…

いったらもう
悪いようには
しないと

食べると
いうのは――

こういうことだ

!?

やめて……!

せつがん
接吻なんて
したら……!

案ずるな
これだけで
孕んだりはせん

ウフ……

赤子がでかん
しまいませぬ……!



そうだな…
これから
共に生きるのだ

痛い思いをさせて
お主に嫌われては
堪らん

こよい
今宵は

女の悦びを
教えてやろう



えっ?

唇を薄く開いて

!

おす…

力を抜け

ふえ!?

う!?

Wッ

は

何これ体から
力が抜けてしまう

頭が
ぼろこぼろで

されるがまま

んっ

んっ

んっ



舌を出せ

上あごをくすぐられると悦いだろう

もっとしてやろう



そうそのまま

?



お主の体は
霊力の泉

こうして
触れ合うほど
吾の力になる



さて

接吻で孕む
というなら



表情が
変わったな

荡けた
いい顔だ





どうして私の名前
知ってるの…?

ハハ



これは

私かへん
なのでですか?



確かめようか?



触られてるのは
乳首なのに

切ない刺激が…
下のほうまで

スルッ





少し触れただけでも
腰が砕けそうだろう



逃げないように
皮を剥いて
固定して



裏筋を先に向かって
撫で上げてやれば



気をやったか

なにこれ
ドクドクして
降りてくられない

これから毎晩
こうして
可愛がってやる

どうだ？
悪くないだろう

これから
ずっと……？

この甘い蜜
もっと
いただこうかな

や……！
ダメ今
触らないで……！
へんだから……！

駄目？
嘘はよくないな

1104

罰として

舐めやすいように
自分で開いて
もらおうか

!?

ほ

あ

♡♡

な...で
体が勝手に...!?

いや...!
こわい...!

怖い?
それは嘘だろう

こんなに厭いやらしく
感じておいて

んんん

んんん



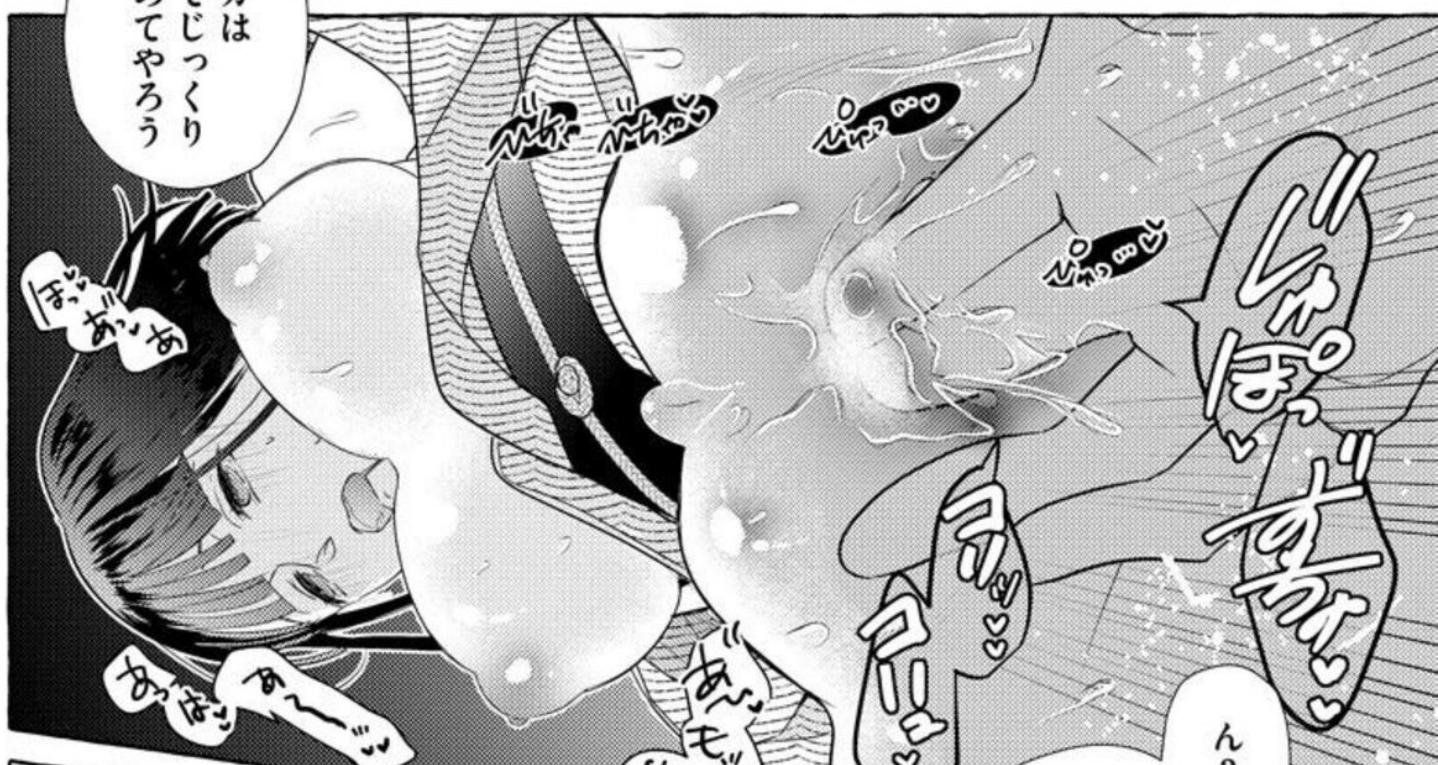




この上側
触れるとまた
溢れてくるな

小夜が
好きなここは
舐め上げて...

ナカは
指でじっくり
責めてやろう



ん？

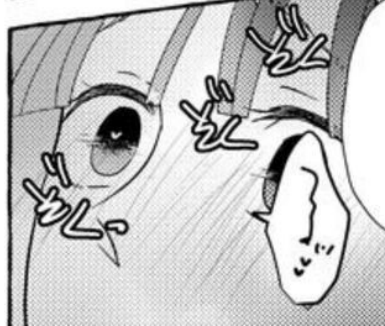
そんなに腰を使って...
限界か？



「厭」ではない

気をやる時は
「イク」と
いうんだ

小夜







では明日の
夜伽は――

これをお主のナカに
迎えてくれよ？



初めてで潮を吹くとは…
これからが楽しみだ



小夜――

発行所 株式会社ぶんか社

〒102-8405

東京都千代田区一番町29-6

www.bunkasha.co.jp

※本作品はすべてフィクションです。実在の人物・事件・団体等には一切関係ありません。
※本書の内容あるいはデータを、全部・一部にかかわらず、無断で複製、転載、改竄、上演、
放送および公衆送信（インターネット上への掲載を含む）することは、著作権法上の例外を
除き禁じられています。また、個人的な使用を目的とする複製であっても、コピーガードな
どの著作権保護技術を解除して行うことはできません。